



おいしいものが
たくさんあります



今年もとん汁



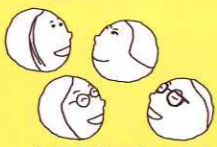
ビンゴゲームも

あさやけ作業所のパンもある。

ラインの上を動くライトレースロボ
も来るんだって。

屋内広場の
国際交流コーナーで留学生と交流できるよ。

パンケーキの漫才が楽しみ。



実行委員のみなさん



実行委員長の由井です。
小平市はいろいろな市民活動
が盛んです。今年の元気村
まつりは、60団体が参加して
にぎやかにいきます。
ぜひ皆さん連れだって
お越し下さい。

あすぴあ登録団体 &
市民活動団体の紹介
こんな活動を
しています

Vol.
24

今年、周年行事を
行った2つの団体の
イベントを
ご紹介します。

ゆうやけ子どもクラブ40周年コンサート

7月8日午後2時から、ルネこだいら大ホールで、ゆうやけ子どもクラブ40周年コンサートが行われました。1300人ほどの市民が集まり、満員の会場は、エバリー（5人編成バンド）の演奏、映画、音楽構成劇を楽しみ、大合唱をしました。

ゆうやけ子どもクラブは、1978年6月17日午後、障害のある子ども4人とボランティアの大人5人で行った「遊びの会」から始まりました。活動を続けるにはボランティアでは限界があると考え、行政に補助金を求めたところ、1979年から東京都の心身障害児者通所訓練事業で補助金が出るようになり、年間260万円の補助金で活動するようになったそうです。少しずつ、活動する人をボランティアから正規職員にすることができ、1997年には施設を確保できたそう

40人ほどの職員が子どもを育てる活動をしています。ゆうやけ子どもクラブでは、職員が施設で子どもと生活を共にしてコミュニケーションを深めている一方で、親同士のつながりを深める父母会の活動も活発です。それを理解できたのが40周年コンサートのフィナーレ。子どもたちと親、職員がステージに上がり、大合唱をしたときでした。だれもがそれを理解できて、会場にいる人も一緒に歌っていました。

これが、ゆうやけ子どもクラブ。利用している子どもも父母も職員も力を合わせて、これからも笑顔で毎日が過ごせそうです。

(北)



です。2012年、障害のある子どもの放課後活動を支える国の制度、「放課後等デイサービス」が始まり、ゆうやけ子どもクラブは、2013年から「放課後等デイサービス」の事業所になり、ゆうやけ第3子どもクラブが新たに開設され、今、ゆうやけ子どもクラブの3つの施設を80人ほどの子どもが利用し、

DATA

放課後デイサービス事業所●

- ゆうやけ子どもクラブ 小平市小川町1-983
 - ゆうやけ第2子どもクラブ 小平市学園東町3-3-18
 - ゆうやけ第3子どもクラブ 小平市鈴木町1-291-2
- 運営●特別非営利活動法人 あかね会

元気村まつり 2018

見つけよう! 心つながるコミュニティ



第13回
NPOフェスタ
市民活動見本市



元気村ひろば
元気村施設の発表

10月28日(日)

10時 から 15時30分

小平元気村おがわ東

市民活動の展示
団体インタビュー
舞台発表
朝鮮舞踊・剣武
喫茶 + 生演奏
とん汁・だんご・パン
おかいもの



■来場者用の駐車場はありません

元気村施設の発表
屋外広場で運動体験
スタンプシールラリー
フィナーレは15時から
「パンケーキ」の漫才
六小ダンスクラブ

■主催 小平市民活動支援センターあすぴあ 電話 042-348-2104
■企画・運営 NPOフェスタin元気村2018実行委員会

2018.8月末の情報



※
海老原宏美さん
(自立生活センター東大理事長)
佐藤邦彦さん(小障連代表)(右側)

映画「風は生きよという」上映会と 出演者海老原宏美さんとのわくわくトーク

小平市障害者団体連絡会(小障連)10周年記念

2006年設立された小障連の掲げた目標は、障害者関係団体が障害の違いを超えて連携することと、障害者福祉推進のための啓発や提言活動を行うこと。「提案型」運動を目指して行政とも協力、連携するやり方*は、当時画期的でした。連携団体は33団体から50団体に増加。現在は当事者(身体障害)の佐藤さんが3代目代表です。

*初代代表(世話人)岡田さんの「小障連10年を振り返って」参照

8月4日の猛暑日、ルネこだいらのレセプションホールに小林市長と金子社協会長も招いて、クールなイベントが始まりました。言語障害のある代表には代弁支援を、聴覚障害者には手話通訳と要約筆記を付け、映画は字幕と音声ガイドが付くバリアフリー映画です。全国の人工呼吸器で生きる重度障害者の日常生活や学校生活、家族や介助者との関わりを淡々と紹介しているので、そのまま心に染み入ります。

ゲストの海老原宏美さんは脊髄性筋萎縮症です。ホースをくわえながら早口のその語り口は優しく揺るぎなく鋭い。フフフと楽しそうに相手の話を受け止めては自分の考えを伝えてくれます。パワーの源はお母さまの、「あなたはどうしたいのか」「体が利かないなら頭と口を使いなさい」と本気を求める育て方や、障

害者甲子園という高校生の合宿生活で同年代から介助を受ける体験も下地にあるとか。誰にでも声をかけて介助を求めることが、自身をより自由にしていく。名づけて「人サーフィン」と笑います。

差別解消法ができていなくてもならない差別やいじめ。障害者が地域の中で生き辛くなる一因に、偏見や先入観があります。「共に生きる」ための術はインクルーシブ教育で、小さいうちから手助けやコミュニケーションの仕方を学んでほしいけど、と話された海老原さん。多くの人に知ってほしいイベントでした。(野)

DATA

- 例会日●4 水曜日午前
- 会費●年 2,000円
- 場所●小平市福祉会館等
- 連絡先●おだまき(岡田) odamaki@io.ocn.ne.jp



★このポスターを貼ってくださる団体・個人を募集中

★連絡は 042-348-2104 info@kodaira-shiminkatsudo-ctr.jp